



# 勝山の学舎

前橋市立勝山小学校  
学校通信  
第5号  
令和元年6月18日

## 間違ふこと、失敗することの大切さ!

「失敗」・「間違え」という言葉は、あまりいいイメージがない人が多いのではないかと思います。しかし、「失敗」や「間違え」は大人、子ども関係なく、誰にでもあることです。人間は、誰もが失敗したり、間違えたりしてしまうのです。ですので、「失敗」や「間違い」は決して、悪いことでも恥ずかしいことでもありません。もっと言うと、「失敗」や「間違い」はとても大切なことです。

なぜ、「失敗」や「間違え」は大切なのでしょうか？ その一つの例ですが、先生は、美術の先生として中学生に指導してきました。観察して描く場面で、いつも話していたのが、「間違った線は、絶対にすぐに消さない。」ということです。ほとんどの生徒が、物を見ながら描いていると、線の傾きや長さ、曲がり方等がおかしい（間違っている）と思うと、すぐに消してしまうのです。消して、正しい線を描こうと頑張っているのですが、また、同じような線を描くことが多いのです。間違った線を残しておけば、それを基準に正しい線が描きやすくなるのに、「間違え」を生かしていないのです。絵を描く経験が多い人でも、全く間違ふことなく描くことはできません。間違え、その間違えた線を生かしながら、形を捉え描いていくのです。そう考えると、人間は間違ふて当たり前。せっかくした間違えを生かさなないのは、もったいない。これを他の教科に置き換えてみると、算数で間違えたとします。その間違えを恥ずかしがることなく、「どうして間違えたか?」、「どこで間違えたか?」を途中の式や図などから、確認していけば、必ず正しい答えにたどり着くはずで、間違えから、振り返りながら、答えにたどり着く経験をすると、同じ間違えをしなくなる、その学習は、一生忘れることがない等の、たくさんのよさがあります。

学習以外の生活等でも同じことが言えるはずで、失敗や間違いをごまかしてしまわず、しっかりと認め、自分自身が受け止めることができると、同じことを繰り返さなくなるのです。

そこで大切なことは間違えを恥ずかしがることなく、他の人の失敗や間違いを笑ったり、バカにしたりしないことです。一生懸命に取り組み、失敗しても、みんなで支えたり、その間違えを生かして前進できる、勝山っ子であってください。

### 「読み聞かせ」 読書好きな子どもの育成!

今年度も保護者の皆様を中心に大学生のボランティアの皆さんが来校し、全ての学級で「読み聞かせ」をしてくださっています。学年の子どもたちの実態にあった本を選び、子どもたちを引きつけながら、本の楽しさを感じさせ、子どもたちに少しでも多くの本に触れてほしいという気持ちで、心を込めて「読み聞かせ」をしてくださっています。子どもたちも真剣に聞き、本の世界に引き込まれています。このように、保護者や様々な方に支えられて子どもたちが多くの経験をできているのです。「読み聞かせ」の皆様、本当にありがとうございます。各ご家庭でも忙しい中かと思いますが、時間がある時に、読み聞かせをしたり、お子さんと一緒に本に触れたりしていただくとありがたく思います。



### 「給食指導」 食育の視点から調理場との連携!

5月より調理場の栄養士さん等が給食の時間に学校を訪問し、食育の視点で学年の実態に合わせて、給食着の着方、箸の持ち方、どのような気持ちで、どのように調理員の方が給食を作っているか、栄養のバランス等について話をしてくださっています。毎日当たり前のように、給食やご家庭における朝食や夕食を食べているのではないかと思います。栄養士さんの話を聞くことで、日頃なかなか考えることの少ない、食事や食事を作ってくださっている方への感謝の気持ち等に気付けることを目的に、調理場との連携により実施しています。学級活動や5、6年生の家庭科の学習においても食育について考える機会をつくっていきます。是非、ご家庭においても話題にいただければ幸いです。



## 「修学旅行」 ねらいを意識し、協力して過ごし、成長した2日間！



6月6日(木)・6月7日(金)の2日間、6年生の大きな行事の一つである修学旅行に行ってきました。1日目は、古都鎌倉でのオリエンテーリングを行い、中華街に近いホテルに宿泊し、2日目は八景島シーパラダイスで様々な経験をし、最後に国会議事堂を見学しました。

当日を迎えるまでに、実行委員の子どもたちを中心に準備をすすめ、体験を基に多くのことを学び、全員が気持ちよく過ごせる修学旅行となるよう、「めあて」を子どもたちで考えました。そのめあて「学ぼう」・「考えよう」・「協力しよう」・「思いやり」を基に、子どもたちはしっかりと大切な2日間を過ごしました。



1日目の鎌倉でのオリエンテーリングでは、思いのほか修学旅行生で混んでいたため、予定していた江ノ電に乗車できず、急遽予定を変更せざるを得ない班もありました。しかし、子どもたちは、そのような中しっかりと考え、班の仲間と協力をし、一生懸命に活動をしていたことが、ゴールをした時の疲れた表情の中に、やりきった満足感が伺える顔からも分かりました。夕食の本格中華料理は、楽しみ味わいながら、残さずしっかりと食べることができました。



2日目の八景島シーパラダイスでは、水族館を見学した後、イルカやアシカのショーを見学しました。イルカとインストラクターの息の合った動きに、歓声を送るとともに目を輝かせていました。「将来、自分もインストラクターになりたい。」と話してくれた児童もいました。昼食をとった後、アトラクションを楽しみました。途中から小雨に降られましたが、限られた時間の中、班で協力し充実した時間を過ごしました。

国会議事堂では参議院議員の見学をし、傍聴席に座り、たくさんの説明を聞きました。国会議事堂の歴史ある建物や各部屋、議会場を興味深く見学し、日本の政治の中心について多くのことを学びました。

この2日間の貴重な経験を通して、子どもたちが一番学んだことは、仲間と一緒に過ごすことの素晴らしさではないかと感じます。このメンバーで、また一緒に修学旅行に行きたいと思える素晴らしい子どもたち。ぜひ、その気持ちをこれからの学校生活の中で、違った形で実現してほしいと思います。これからがスタートです。大切な思い出を胸に頑張っていこう！

## 「縦割活動」 異年齢の交流での様々な育ちを！

本年度も前年度まで同様に、縦割活動を行っています。第1回目の縦割集会で班員が自己紹介をし、次回の活動でどのような遊びをするかを高学年の子どもたちが中心となって決定しました。第2回目の縦割集会で、それぞれの班が決定した遊びをし、異年齢での交流をしました。「ドッジボール」、「追いかっこ」、「ハンカチ落とし」等、各班ともに遊びを工夫し、短い時間でしたが全員で楽しい時間を過ごしました。

幼少期の遊びの変化に伴い、上の学年の子どもたちが下の学年の子どもたちの面倒を見たり、モデルとなったりすることで自己有用感やリーダー性、社会性、また、下学年の子どもたちがお兄さんお姉さんの言うことをしっかりと聞いたり、あこがれの気持ちを持ち、自分も上の学年になったら頑張るぞという気持ちなど、人とかわる上で大切なことを学ぶ経験が減ってきています。そのような大切な様々な面での成長を支えることができる活動が異年齢交流です。今後も、子どもたちの成長のため工夫して継続していきたいと思えます。



## 保護者の皆様へお願い

下校時のお迎えが必要で車で来校される際、北門付近で停車し待機していただいています。その時に、東側に通り抜けできないため、車の向きを変えて待つに当たり、近隣のアパートの駐車場等でUターンをせず、路上で向きを変えていただきますよう、お願いいたします。学校の駐車スペースがなく、ご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力くださいますようお願いいたします。

